



2015年3月 第13巻第3号

・今月の思想

## かく語りき—聖人の言葉

「この世の大海を渡りたいと真に願う人は、どうにかして束縛の糸を断ち切ります。このような人々を捕らえておくことは誰にもできません」

(ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「この世は、信仰篤き者には牢獄であり、不信心な者には楽園である」

(預言者ムハンマド)

## 今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・2015年5月の予定
- ・2015年3月の逗子例会にてシュリー・ラーマクリシュナ生誕180周年記念祝賀会を開催
- ・「シュリー・ラーマクリシュナの素晴らしい霊的たとえ話」  
スワーミー・メーダサーナンダによる講話
- ・忘れられない物語

## 5月の予定

### ・協会の行事

5月2日(土) 14:00~16:00

東京・インド大使館例会

講演: バガヴァッド・ギーター (無料)

場所: インド大使館 03-3262-2391

お問い合わせ: 逗子協会 046-873-0428

\*IDカード(免許証など写真付きの身分証)を必ずお持ちください。

5月3日、10日、17日、24日、31日  
(日) 14:00~15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所: 逗子本部 新館アネックス

\*体験レッスンもできます。

お問い合わせ: 080-6702-2308 (羽成淳)

5月7日(木)~9日(土)

日本ヨーガ療法学会(神戸)

\*詳細は日本ヨーガ療法学会のウェブサイトをご覧ください。

5月17日(日) 14:00~

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

\*IDカード（免許証など写真つきの身分証）を必ずお持ちください。

\*詳細は後日、協会ウェブサイトの特別プログラムに掲載します。

5月22日（金） ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動

現地でのお食事配布など。

\*現在募集している品々は、協会ウェブサイトのトップページ下の方をご覧ください。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

5月23日（土） 13:30～17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターとウパニシャッドを学ぶ」

\*詳細は、協会ウェブサイトの特別プログラムをご覧ください。

5月24日（日） 10:30～16:30

\*5月は第3日曜ではなく第4日曜に変更されました

逗子例会

場所：逗子本部 本館

午前：講話

午後：朗誦・輪読・講話

## ラーマクリシュナ生誕 180 周年記念祝賀会を開催

3月15日（日）、日本ヴェーダーンタ協会の逗子例会で、シュリー・ラーマクリシュナの生誕 180 周年を記念して祝賀プログラムを執り行いました。

午前6時に本館の礼拝室で朝拝（マンガラ・アラティ）、聖句詠唱、賛歌朗唱が行われ、祝賀会の準備のために前泊されたボランティアの方々などが参加されました。

朝食後、ボランティアの皆様のご協力により、新館（アネックス）に祭壇、礼拝（プージャー）用の台や道具、参列者用の椅子、音響機器が設置されました。また、花の奉獻（プシュパンジャリ）用の花のつぼみと葉が準備され、供物や生花が祭壇に美しく飾られました。

スワミー・メーダサーナンダ（マハーラージ）は、祭壇に置かれたシュリー・ラーマクリシュナ、シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの御写真の額に白檀のペーストを付け、祭壇に向かってひれ伏して挨拶し、礼拝用の台上に上がりました。そして、ほら貝の音と共にプージャーが始まりました。

マハーラージは地球の五大構成要素

2015年3月の逗子例会にてシュリー・

を象徴する道具を使って、儀式の介添え（タントラダラク）のアニルバン・ムケルジーさんと共にプージャーを執り行いました。



マハーラージはマントラを唱えながら時折ベルを鳴らし、信者がほら貝を吹いたりベルやシンバルを鳴らしたりしました。続いてのアラーティでは、約150名の参加者が「カーンダナ・バーヴァ・バンドナ（Khandana Bhava Bandhana）」を斉唱しました。そして、マハーラージはハルモニウムを演奏しながら参加者と一緒に「サルヴァマンガラ・マンガーリエ（Sarvamangala Mangalye）」を歌いました。

Om Sarva Mangala Mangalye Shive  
Sarvartha Sadhike

Sharanye Tryambake Gauri Narayani  
Namostu Te

Srishti Sthiti Vinashanam,  
Shaktibhute, Sanatani  
Gunashraye, Gunamaye, Narayani,  
Namostu Te

Sharanagata Dinarta Paritrana  
Parayane  
Sarvasyartihare Devi! Narayani!  
Namostu Te

Narayani Namostu Te  
Narayani Namostu Te  
Narayani Namostu Te



次に、プシュパンジャリ用の花のつぼみと葉が参加者に配られると、全員起立してマハーラージのリードでプシュパンジャリのマントラを唱え、数人ずつ祭壇につぼみと葉を捧げました。供物が祭壇から下げられて本館の台所に運ばれ、台所では昼食のプラサードの準備が始まりました。



アネックスの礼拝用の台上に護摩炉の準備が整うと、護摩（ホーマ）が始まりました。再びムケルジーさんが介添えを務められました。マントラと共に火は大きく燃え上がり、ギーのはじける音がパチパチと響きました。最後にマハーラージが炎に水を振りかけると、火はもうもうと煙を立てながら消えていきました。マハーラージは護摩炉から灰を取り出しギーと混ぜ合わせて聖灰（ビブーティ）を作ると、初めに祭壇のお三方のお写真の額に、続いて参加者一人一人の額に塗りつけました。



参加者はビブーティをいただくと、本館に移動してプラサードの昼食をおいしくいただきました。



午後のプログラムは2時30分に始まり、マハーラージの先導で参加者は「オーム・サハナー・ヴァヴァトゥ（Om Sahana Vavatu）」のマントラを詠唱しました。マハーラージは、多数の参加者と共にプージャー、アラーティ、プシュパンジャリ、ホーマの儀式を執り行えたことの喜びを述べ、自分が日本に駐在して間もない頃は生誕祭のプログラムは賛歌と講話だけだったこと、その後プージャーやホーマなどのプログラムが少しずつ加えられて、今のようになり午前中にプージャー、アラーティ、プシュパンジャリ、ホーマを、昼食のプラサードの後に午後は講話と音楽プログラムを行うようになったことを説明しました。

さらにマハーラージは、当初は生誕祭の参加者も少数だったが次第に人数が増えて、本館では参加者全員にプログラムをきちんと見てもらうのが難しくなったこと、このため本館のすぐ近く

に土地を購入してアネックスを建設したこと、しかし参加者がさらに増えたことからアネックスでも十分ではなくなっていることなどを話しました。そして、「このような団体がこんなに大きく変わるなんて。新館を建てたら参加者が減ってしまったということもあり得たわけですが」と冗談を言いました。

「今日は特別な音楽プログラムもありますが、その前にシュリー・ラーマクリシュナについて少しお話ししたいと思います。このような機会に、プージャーやホーマ、プシュパンジャリなどの礼拝や儀式と昼食のプラサードだけでなく、講話という形で霊的な栄養も一緒に取りましょう」マハーラージはこう言うと、シュリー・ラーマクリシュナがたとえ話を非常にうまく活用されたことについて講話を行いました。（講話は本ニュースレターに掲載）

講話が終わると、特別音楽プログラムが行われ、2人のインド人信者さんによる賛歌、サムドラ・ダッタ・グプタさんによるハルモニウム演奏と賛歌、日本人信者さんらの賛歌とヨーガスクール・カイラスの皆さんによる賛歌が順番に披露されました。

そして、特別ゲストとしてお招きしたインド人ミュージシャンで構成された音楽グループ「トウキョウ・ウィークエンダー」による約50分間の演奏が行われ、素晴らしい音楽を皆で楽しみま

した。





## 「らしい霊的たとえ話」

### スワミー・メーダサーナンダによる 講話

現代ベンガル文学に、多方面に才能を現したプラマタナート・ビシ (Pramathanath Bishi) という著名な作家がいます。彼は、インドの文学者・教育家のラビンドラナート・タゴールが創設した学校、後の有名なヴィシュヴァ・バーラティ国立大学 (Viswa-Bharati University) で成長し教育を受けました。ビシはシュリー・ラーマクリシュナと『ラーマクリシュナの福音』について意味深いコメントをしています。ビシは、古来より有名なサンスクリット語の詩人カーリダーサが創造的に直喩を用いたのは素晴らしいと認めながらも、タゴールはカーリダーサを超えたが、シュリー・ラーマクリシュナほど巧みにたとえ話を用いた人は他におらず、カーリダーサもタゴールもかなわなかった、と言いました。シュリー・ラーマクリシュナが楽々と話して見せたたとえ話の、その芸術的な才能を、タゴール流の文学的教育を受けているビシが褒めたのですから、これは素晴らしいほめ言葉でしょう。

その後、茶菓が振る舞われ、引き続きアネックスで夕拝、瞑想を行いました。すべてのプログラムが終了した後、再びボランティアの方々のご協力の後片付けや掃除が行われました。

## 2015年3月の返子例会

### シュリー・ラーマクリシュナ生誕 180 周年記念祝賀会

#### 「シュリー・ラーマクリシュナの素晴

カーリダーサやタゴールが用いた直喩とシュリー・ラーマクリシュナのたとえ話が大きく違う点は、カーリダーサやタゴールの直喩を完全に理解する

には想像力を駆使する必要がある一方、シュリー・ラーマクリシュナのたとえ話の場合は日常生活のよくある経験を用いているため想像力を要しないということです。シュリー・ラーマクリシュナのたとえ話はシンプルですがとても深いものでしたし、一つのことを説明するためにたとえ話をいくつも用いました。また身振り手振りなども交えて話したため、聞いた人にとって覚えやすいものでした。

詩人の言葉は想像と思考によって生まれますが、シュリー・ラーマクリシュナのたとえ話は深い悟りが源です。詩人の直喩を読むことは楽しいものですが後で思い返すことはまれでしょう。しかし、シュリー・ラーマクリシュナのたとえ話は神秘的な魅力があるだけでなく心に深く刻まれるため、聞いた人は後から自然と思い起こすのです。日常の出来事や行動の観察から生まれるたとえ話は、倫理的にも霊的にも人生における重要な価値観を学ぶ源となり、聞いた側は言われたことを忘れません。

では、シュリー・ラーマクリシュナのたとえ話をいくつかお話ししましょう。

神が有形であるか無形であるかについて、意見の対立があります。ユダヤ教やキリスト教、イスラム教は無形の神を信仰しており、ヒンドゥー教はご

存知の通り有形、無形のどちらの神も信仰しています。この相違を解消することは宗教の調和に取り組むことでもあり、学者の問題であるだけでなく、今日の世界の問題でもあります。シュリー・ラーマクリシュナは、これについて美しいたとえ話をしています。H<sub>2</sub>O、すなわち水は、気体の時は目に見えず液体になると目に見えますが、化学的には同じ物質です。さらに氷になると別の形を取りますがやはりその本質は同じ H<sub>2</sub>O です。これは、有形の神と無形の神が同一である、という説明です。この例は非常に論理的で説得力があり、想像力を駆使する必要もなく簡単に理解できます。

また、ゴッド、イーシャ、アッラー、神様など、別々の神様がいてどれが本物でどれが偽物かという争いがあります。シュリー・ラーマクリシュナはこれについて、キリスト教徒、ヒンドゥー教徒、イスラム教徒が同じ池に水を汲みに行くたとえ話をされました。何をしているのかと尋ねられると、イスラム教徒は「パーニー (pani)」を汲んでいるのだと言い、キリスト教徒は「ウォーター (water)」を、ヒンドゥー教徒は「ジャル (jal)」を汲んでいるのだと答えました。彼らが汲んでいるのは皆同じ水ですが、呼び名が違うだけなのです。それぞれの宗教の神も違いはなく同じで、呼び名が違うだけなのです。このたとえ話も、やはり想像力

を駆使する必要はなく、子供でもすぐに分かります。

さらに、無限の神を礼拝するのに有限の神像を用いることについても、シュリー・ラーマクリシュナは美しいたとえ話をされています。この話は私が一番好きな話なので、何度もお話ししています。19世紀のインドでは、ブラーフマー・サマージの信奉者は有形の神の礼拝を信じておらず、神像を用いて無限の神を象徴することなどできないと考えていました。当時、ケシャブ・チャンドラ・センという有名なリーダーがいましたが、彼はシュリー・ラーマクリシュナに大きな敬愛を抱いており、よく訪ねてきました。ある時、シュリー・ラーマクリシュナに向かってこのように言いました。「師よ、あなたのマー（カーリー母神）がこの宇宙を作ったと仰るのなら、有限でこんなに小さいマーがどうやってこの全宇宙を創造されたというのですか」

先ほど「サルヴァマンガラ・マンガリエ（Sarvamangala Mangalye）」という母神の賛歌を歌いましたね。この中に、「Shristi-sthiti-vinashanam」という3語がありますが、これは、「母よ、あなたはこの宇宙を創造され、維持され、破壊されるお方です」という意味です。さて、ケシャブの質問にシュリー・ラーマクリシュナは、太陽はあんなに大きいのに空に浮かぶ小さな円の

ように見えると答えられたのです。もちろんこれは太陽から遠く離れているからで、このことは簡単に分かります。さらに、ケシャブはマーから遠く離れていてマーのことをわずかしか理解していないから、マーが小さく有限に思えるのだと説明されました。「お前がマーに近づけば、マーのことをもっと理解して無限の性質が分かるだろう」と仰いました。

これも説得力のある答えです。しかも、学者でも何でもなく、ほとんど教育を受けていない人が返した答えなのです。シュリー・ラーマクリシュナがいくつものたとえ話をするのを聞いていて、来訪者の中には「師よ、あなたは前もってこういうたとえ話を準備されているのですか」と驚いて尋ねた人もいました。シュリー・ラーマクリシュナはこう言われました。「いや、準備などしていない。もししていたとしても忘れてしまうよ。マーが至る所にいらっしゃるから、私がどこに行ってもマーが知識を際限なく与えてくださる」つまり、こうしたたとえ話は、一切の源であるカーリー母神が与えてくださり、シュリー・ラーマクリシュナがそれをお使いになって靈性の求道者から疑いを取り除き、正しい知識の道へと導かれたのです。『ラーマクリシュナの福音』にはこのようなたとえ話が何百と出てきます。恐らく各ページの一つは出てくるのではないのでしょうか。



今日ここにいらっしゃる皆さんのほとんどは住者の方ですから、次の話は皆さんの生活に関わることです。シュリー・ラーマクリシュナは、家庭を捨てて森に入るか、出家してラーマクリシュナ・マトかサーラダー・マトに入れとは仰いませんでした。家庭や子供がいても決して問題ではありません。しかし、心の平和が欲しいのなら、シュリー・ラーマクリシュナの助言をよく聞いた方がいいでしょう。お金が欲しいのなら、役に立つ助言はありません。

私たちは、20代の頃には平安が必要だとは感じることなく、ロマンチックな思いを抱き、すべてが楽しいバラ色の人生を思い浮かべているものです。しかし就職して結婚すると、平安のない日々が始まります。最初は少しずつ、年と共に平安は失われていきます。子供が生まれて、そのうち子供が言うことを聞かなくなると、心の平和はどんどんなくなるのです。そして、夫婦間や子供との人間関係、同僚や上司との人間関係がさらに拍車をかけます。

では、心の平安を本当に必要とする方へのシュリー・ラーマクリシュナの助言を言いましょう。無執着です。シュリー・ラーマクリシュナは住者の信者らに対し何度となくこの助言をされています。家庭や住まい、お金、車、仕

事など何を手にしていてもいいのです。ただ一切に対して無執着になってください。シンプルですが最も重要な助言です。

スワミー・ブテシャーナンダジーがラーマクリシュナ僧団のプレジデントであられた頃、ベルル・マトにいらっしゃるブテシャーナンダジーのもとに多くの信者さんがいらっしゃいました。家族がいてたくさんの問題を抱えている信者さんたちは、皆、こう質問しました。「マハーラージ、どうしたら平安を得られるでしょうか」これに対してブテシャーナンダジーが「無執着になりなさい」と答えられると、皆さん口を揃えて「マハーラージ、それは難しすぎます」と言われました。するとブテシャーナンダジーは仰いました。「よろしい、では平安を求めるのをやめなさい。無執着を実践する気がないのなら、平安がないことに満足しなさい」

私が思うに、平安が欲しいという人の99%は口先だけで言っていて、本当は平安のない状態が好きなのです。平安が続くとどうしていいのかわからなくなってしまったので、心配事があった方がいいのです。だから、平安を得られないという問題を真剣に解決しようとしなくていいのでしょうか。本当は自分がどうしたいのか、内省した方がよいと思います。

シュリー・ラーマクリシュナは無執着の考え方とその実践方法についていろいろなたとえ話をされていますが、大切なのは無執着の考え方を持つことであり、それには水の上のボートの話があります。ボートの中に水が入っていると沈んでしまいがちですが、水が入っていなければうまく浮かびます。同じように、あなたが家族の中に入っているとしても、家族をあなたの中に入れなければよいのです。難しいパラドックスのように思えますが、この意味を深く考えれば無執着とは何かを理解できます。

ベンガル語の哲学的な民謡で非常に有名なものがあります。「Baul Gaan」という歌で、「Amar Jemon Beni Temni Rabe」という歌詞で始まりますが、これは「私は何でもするが、一切に執着しない」という意味です。さらにこのような歌詞が続きます。

「私は沐浴するが、髪は濡らさない。  
私は料理をするが、米びつには触らない。

私は貞淑にも不貞にもならず、夫のものを離れない！」

シュリー・ラーマクリシュナのたとえ話には、「蓮の葉に水がかかっても葉が水で濡れることはない」、「ジャックフルーツを割る前に手に油を塗りつけておけば、果汁が手に付くことはない」というものもあります。つまり、無執着

の実践とは、自分の態度を変えることにあります。それには、神との関係は永遠だが、家族との関係はどんなに深いものでも今世で終わるのだということをおぼろげに思い出さなければなりません。この考え方を明確にしておかないと、無執着の実践ではなく家族を見捨てることになってしまいます。放棄の否定的な面は、世俗の物事への執着を捨てることですが、肯定的な面は神様への執着を強くすることです。この肯定的な面を忘れてしまうと、無執着は否定的で耐えがたいものになります。

シュリー・ラーマクリシュナは、神様への執着を強める方法を、歯の痛みのたとえ話で説明されました。歯が痛くても仕事などいろいろなことができるが、何をしても心のどこかで歯が痛いことを考えているものです。同じように、何をしても心の一部が神様とつながっていればよいのです。常に神様の名前を唱えたり、神様のことを考えたりしましょう。

また、日常生活や霊的实践において、自助努力と神様にお任せすることどちらがよいのかという疑問もあるでしょう。シュリー・ラーマクリシュナは、これについても美しいたとえ話をされています。子ネコと子ザルの違いです。子ネコは完全に母ネコ任せで、母ネコに置かれた場所があたたかいベッドであろうが汚い場所であろうが、ただそ

こにおいて、欲しいものがあればニャーニャーと鳴いて知らせます。一方、子ザルは自分で母ザルにしがみついていますから、時には滑り落ちる可能性もあります。

同じように、信者の中には「自分がやらなくては。あれをして、これをして」と霊的な実践や儀式をやろうとして自分の生き方を心配している人と、神様に一切お任せしている人がいます。少なくとも初めのうちは、両方やると思います。最初は完全に神様にお任せするのは難しいものです。でも、霊性の道を歩みながら、少しずつ神様にお任せする態度を養いましょう。

最後に、霊性に関する本を何千冊も読み、講話を何百と聞いても、そうした教えを実践しない限り進歩はなく、人生で真に変わることはできないのです。シュリー・ラーマクリシュナはこれについて、バターと牛乳のたとえ話をされています。バターは牛乳から作られるのは誰もが知っているでしょうが、目の前に牛乳の入った壺が置いてあっても「バターが欲しい、バターが欲しい」と繰り返しつつやいたところでバターはできません。バターを作るためのプロセスを経て初めて、バターが手に入るのです。

同じように、平安が欲しいと唱え続けたところで、平安は手に入りません。

その前にプロセスを経る必要があります。牛乳をまず凝乳に変えて、これを攪拌するとバターができますから、手間をかけてこれをやる必要があるのです。やれば必ずバターができるのですが、やらないとできません。平安を得るのも同じです。

『ラーマクリシュナの福音』で、こうしたたとえ話を楽しく読んで深い意味を理解してください。神様を信じない人が『福音』を読んでも、その文学的価値に驚くと思います。文学を楽しむためでも、よい人生を送るためのヒントを得るのが目的でも、人生の平安を得るためでも、目的は何でも構いません。ぜひ『福音』を何度もくり返し読んでみてください。

## 忘れられない物語

### 貧者の富

ラームチャンドとプレムチャンドは近所に住んでいた。ラームチャンドは貧しい農民で、プレムチャンドは地主だった。

ラームチャンドは、以前はゆったりした心持ちでいられて幸せだった。夜、わざわざ家の戸締まりをする必要はなく、ぐっすりと眠れた。お金はなかったが心は平安だった。

プレムチャンドの神経はいつも張り詰めていた。夜は戸締まりをしっかりとしようと考えてばかりで、よく眠れなかった。誰かが自分の金庫をこじ開けてお金を盗むのではないかといつも心配だった。プレムチャンドは、平安に満ちたラームチャンドがうらやましかった。

ある日、プレムチャンドはラームチャンドを呼んで、お金の詰まった箱を渡して言った。「友よ、私はお金に恵まれているが、君は貧しい。だから、このお金を受け取って豊かな暮らしをしてくれ」

ラームチャンドはこの上なく幸福だった。1日中嬉しくてたまらなかった。夜になり、いつも通り寝ようとしたが、その晩は寝付けなかった。起き上がって戸締まりをしに行ったが、やはり眠れず、お金の入った箱の番をし始めた。一晩中気もそぞろで眠れなかった。

夜明けと共に、ラームチャンドはお金の箱をプレムチャンドのところに持って行き、箱を返してこう言った。「友よ、私は貧しいが、君のお金は私の心の平安を奪った。悪いがこのお金を返させてくれ」

教訓：お金ですべてが得られるわけではない。

## 今月の思想

「これを知るをこれを知ると為し、これを知らざるを知らずとせよ、是れ(これ)知るなり。」

(孔子)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)